

(飯河) 左近將監家光 在判  
(飯河) 左衛門尉藤光 在判

七月二日。能登守護吉見氏頼、得江季員の當知行に軍勢衆庶の亂入を禁ず。

【得江文書】

五五〇

得江八郎次郎當知行所領等事、任相傳、軍勢甲乙人等不可致亂入狼藉之狀如件。

應安元年七月二日

(吉見氏頼) 沙彌 在判

八月七日。左衛門尉宗成、珠洲郡本光寺に馬繫村吉弘名の地を寄進す。

【本光寺文書】

五五一

奉寄進 馬繫浦本光禪寺田畠事

合田壹段并御服貳朱代畠當所者

在所同浦吉弘名内

右田畠等者、任故宗量寄進狀之旨、限于永代所寄附之狀如件。

應安元年八月七日

左衛門尉宗成 在判

正平廿四年 己酉  
應安二年 京都

紀元二〇二九

五月朔日。吉見右馬頭、鹿島郡永光寺に禁制を掲ぐ。

【永光寺文書】 鹿島郡

五五二

禁制 永光寺

右於當寺、軍勢并甲乙人等不可致濫妨狼藉。尙以有違犯之輩者、不日可處罪科。仍制札如件。

應安二年五月一日

(吉見) 右馬頭 在判

十月三日。沙彌宗悟、鳳至郡總持寺に櫛比莊内保村の田地を寄進す。

【總持寺文書】 鳳至郡

五五三

奉寄進

能登國櫛比庄内保村内田地事

合參町者 一所ほりこし一町  
一所よまかわ一町  
一所なかるむら一町

右彼所者、宗悟重代相傳所領也。然爲之更祖英崇信菩提、限永代惣持寺奉寄進所也。若於宗悟子孫違亂煩申候者、永可爲不孝仁候。仍爲後日寄進狀如件。

應安二年十月三日

宗悟 在判

十一月二十日。沙彌宗悟、鳳至郡總持寺に法堂造營料として櫛比莊内保村の田地を寄進す。

【總持寺文書】 鳳至郡

五五四

奉寄進

能登國內保村内總持寺領事

一段三 おたらう作

合參段者 一段四 ふかた

三 キツネ田

右彼田地者、宗悟重代相傳所領也。然爲總持寺法堂造營、限永代奉寄進所也。於宗悟之兒孫中、就彼田地致違犯儀者、永可爲不孝仁候。仍爲後日寄附之狀如件。

應安二年十一月廿日

宗悟 在判

(總持寺の佛殿造立は永徳二年八月の條、法堂造立

のことは至徳三年九月廿九日の條に見えたり。然ればこの頃より建築の計畫ありしなるべし。

十二月。能登の士得江季員、能登・加賀・越中に於ける軍忠を具申して吉見氏頼の證判を求む。

【得江文書】

五五五

得江八郎次郎季員申軍忠事

右今年應安 四月廿八日以來、至于六月一日於能登部城、屬于吉見伊豫入道殿御手、日夜抽戰功畢。

一、御下向之間、自越前國金津加州御越之時御共仕、屬于吉見左馬助殿御手、向平岡野、致連日合戰忠畢。

一、同九月七日御敵攻寄宮腰之間、同九日當所御發向之時御共仕處、凶徒即引退大野宿畢。同十二日夜御敵令落大野宿、取陣宇多須山之間、同十五日被責落彼城、同十七日追落松根陣、同十八日越中國千代様城御發向之時、屬同御手、彼城至于没落之期、致忠節畢。

一、同十月廿二日御發向松藏城之間、御共仕抽忠勤畢。  
一、同十二月二日御歸國御共仕、凶徒御退治於所々致